

## ペルー チリを抜いて南米でトップのブドウ輸出国に

FreshPlaza 2023年4月3日

ペルー産のブドウのシーズンが終わりに近づいている。バンガード・インターナショナル(Vanguard International)社のディルク・ウインケルマン氏は、「イカ県にある弊社の農場では約3週間前に収穫を完了した」と言う。収穫期間が終了しても、販売シーズンはさらに数か月間続く。同氏は「今後数週間にわたって引き続き北米とアジアに弊社の荷が到着する」と付け加えた。(以下「」は同氏の発言)

今シーズンの総出荷量は7千万箱強であった。「7,300万箱の収穫が予想されていたので、それをわずかに下回っている。」しかし、昨年と比較するとペルーの出荷量は9~10%増加した。当初の予測からの減少は、主に悪天候とストライキによる果実の損失によるものである。繰り返しのストライキはペルーのアグリビジネス部門に悪影響を及ぼした。「それは業界のあらゆる分野—資材から労働、農作業、物流、積み込みのスケジュール、市場への輸送時間まで—でドミノ効果を生み出した。ペルーでストライキが起こった時、北部のピウラ県は基本的に収穫を完了しており、イカ県が最も大きな影響を受けることとなった。」

### ペルー対チリ

バンガード・ペルー社の自社農場の出荷量は、全国的な増加と一致している。「昨年に比べて出荷量が12~13%増加しており、これは弊社の予想と一致している。弊社が近年植えた木が成木化し、その結果増産に結び付いた。」2022-23年度は、南米でトップのブドウ輸出国としての地位をペルーが初めてチリから奪い取ったため、ペルーの生食用ブドウ産業にとって大きな節目となる。「ペルーは積極的に新しい品種を植えており、それがペルーの主な差別化要因となっている。ペルーの新植園地は成園化し始めているが、チリでは従来からの品種が量を減らしており、同国はさまざまな理由で新しい品種への切り替えが遅れている。チリでは、すべての新品種は強制的な検疫プログラムに登録する必要がある。このため、ペルーの産地と比較して、知的所有権のある新しい品種の増加により長い時間がかかる。」

### 大多数が新品種

ペルーのブドウ品種の構成を詳しく見ると、新しい品種が総出荷量の約68%を占めている。この国は新品種を植え、他のほとんどの国より早く生産段階に達する能力を常に持っており、また新品種の導入に積極的に取り組んできた。「全体的にペルーは新品種の総生産量で主導権を握っている。」ウインケルマン氏はまずは緑色ブドウにおける力強い動きを見ており、次に赤ブドウ、そして黒ブドウが続く。主な緑色品種は、アイボリー™、スイートグローブ™、オータムクリスプ®等で、赤ブドウ品種ではアリソン™、スウィートセレブレーション™、ジャックスサルート™が最も多い。黒ブドウについては、主な品種はスウィートフェイバーズ™とミッドナイトビューティー®である。

### 世界への輸出

バンガード・ペルー社の生食用ブドウは世界中に出荷されている。「弊社のブドウの大部分が米国、カナダ、メキシコに出荷され、北米で確固たる地位を確立している。またアジア、中でも中国、韓国、台湾、タイ、ベトナムに出荷している。」さらに、同社は中南米諸国や英国でも同様の快適で安定した顧客向けサービスを提供している。「弊社はヨーロッパ市場にも進出しており、この収穫期が終わったら、ヨーロッパ大陸での販売プログラムの拡大に力を入れる。また、新しい検疫手続きにより来シーズンの日本への出荷が可能になることにも期待している。弊社の新品種への取組みと新品種による成功は、業界のリーダーとしての競争上の優位性に大いに貢献している。」

執筆者: マリーケ・ヘムズ